

第4回 加賀市都市計画マスタープラン及び
立地適正化計画策定委員会

議事録

1. 日 時 令和4年12月26日(月) 13:00～15:10
2. 場 所 加賀市役所別館 302 会議室
3. 出席者 委員 11名 (内代理2名)
- (委員長) 高山 純一
- (委員) 馬場先 恵子 ※委員長代理
- 原田 陽子
- 宮崎 信子
- 眞田 茂樹
- 高辻 利光
- 唐谷 好二
- 綱 典子
- 竹内 憲一 (代理 田中進一郎課参事)
- 本田 芳宏 (代理 玉田学道路建設課長)
- 金子 直太
- 事務局 8名
- 加賀市 建設部長
- 建設部 都市計画課
- 総務部 危機対策課
- 政策戦略部 スマートシティ課
- 政策戦略部 加賀ライズタウン推進本部
4. 次 第
- 1) 開会
- 2) 建設部長挨拶
- 3) 議事
- I. 都市計画マスタープラン (地域別構想)
- II. 立地適正化計画 (誘導区域等の設定、誘導施設、誘導施策)
- III. 立地適正化計画 (防災指針、まちづくりの目標値)
- 4) 閉会
5. 傍聴者等 一般傍聴 なし
- 報道関係 1社 (北國新聞)

6. 議事内容

<建設部長挨拶>

- ・日頃より市政にご協力を賜り御礼申し上げます。
- ・今シーズンは例年よりも大雪が予想されており、先日も北陸自動車道では富山県境の国道8号や片山津～加賀ICで通行止め、また能登地域で停電が発生するなどの被害が発生している。行政として引き続き、気を引き締めていかなければならない。
- ・北陸では大雪も災害としてとらえていくべきであり、強靱な都市づくりに取り組んでいく必要があると考える。今回の委員会では、地域別計画や誘導区域・施設の見直しとともに、防災指針の審議をお願いしたい。
- ・今後は本日の意見を踏まえ、地元説明や市民への意見を募集する予定である。委員の皆様におかれては、有意義な委員会となるようお願いしたい。

<高山委員長挨拶>

- ・クリスマス寒波はかなり強烈に石川県内で雪が降り、行政は除雪で大変な思いをされたと思う。北陸は時々大雪が降るが、どうしてもソフト的な対応しかできない。一方で地震や津波、土砂崩れや洪水は大きな災害となるため、まちづくりの中でしっかりと計画しておくことが重要である。今回は立地適正化計画の中で、防災指針も取り扱うことになるため、この点もしっかりとご審議いただきたい。

【説明】

1) 都市計画マスタープラン（地域別構想）

金子委員：作見地域のまちづくり方針図について、スマートシティ先導地区の着色が見られるが、色の濃淡が異なる箇所がありどのように解釈すればよいか。

事務局：スマートシティ先導地区の南側は山代地域内にあり、作見地域の区域外を半透明で示しているため、色の濃淡が異なっている。

金子委員：作見地域は、民間活力を導入するライズタウン構想の地域であり、加賀市の施策の目玉であると思われるが、大規模な農地転用があると想定されることから、地主の理解を得るとともに、転用協議も適切に進められるようご留意いただきたい。

唐谷委員：大聖寺地域の自然・歴史・文化において、商工会議所でも提言している「錦城山」や「坂網鴨」などについても、強く発信していただきたい。そのほか、山代地域において今後整備を予定されている「萬松園公園」、片山津地域において「加賀梨」や「ルビーロマン」、「加賀ぶどう」について掲載いただきたい。

また、作見地域においては、観音様周辺の活用について、市としての方向性を示すことも必要ではないか。

事務局：錦城山については、加賀市歴史的風致維持向上計画において大聖寺を重点区域としており、錦城山も重要な要素であると認識しているため、内容について追記を検討する。また、坂網鴨については、橋立地域に片野鴨池の記載があるので、この箇所での追記を検討するほか、山代地域にて整備を予定している（仮称）萬松園公園については、記載を見直し、必要があれば追記を検討する。ルビーロマンなどの農作物については、都市計画マスタープランでの記載の妥当性も含めて検討する。作見

地域の観音様周辺土地については、大変大きな課題であると感じており、土地利用に関する方針は示したいが、活用の方向性については民間の動向もあわせて注視していきたい。

眞田委員：大聖寺地域の課題において江沼神社庭園に関する記載があるが、方針などで特に記載がないため追記をお願いしたい。

事務局：追記を検討する。

馬場先委員：各地域が抱える課題は、地域別懇談会で得られた住民意見のみをとりまとめているものなのか。

事務局：住民意見のほか、現計画策定時に挙げられた課題なども記載している。

馬場先委員：スマートシティ先導地区について、作見地域での記載があるが、山代地域に記載すべきではないか。また、本文中にスマートシティ先導地区の記載がないため、追記が必要である。

動橋地域について、まちづくり方針図で商業振興地区を居住地区に変更しているが、本文には商業振興地区の記載が残っており、方針図との整合性の確認が必要である。まちづくり方針図で示す凡例の順番について、新たに設定したスマートシティ先導地区が4番目に示されており意図はあるのか。

事務局：本文の記載と方針図など、再度確認し整合性を図りたい。凡例の順番については、スマートシティ先導地区は3番目に示す商業振興地区にも類似した要素があることから、4番目に示している。

2) 立地適正化計画（誘導区域等の設定、誘導施設、誘導施策）

馬場先委員：居住誘導区域に含めないエリアとして、現行計画では浸水深1m以上としているが、なぜ今回は3m以上に緩和されたのか。また、今回の見直しにより、誘導区域の総面積が388haから445haと拡大しているが、コンパクトシティを目指す都市として妥当なのか。

事務局：浸水深の変更について、想定される災害の規模を現行計画では80年に一度としていた設定を、今回は1000年に一度に変更したため、浸水エリアが大きく拡大し、同じ基準では誘導区域を指定することが難しい状況であった。故に、今回は3mを基準とし、浸水継続時間も新たに考慮しつつ、防災指針において減災対策などによりカバーしていくという考え方とした。

コンパクトシティの考え方との整合性については、宅地開発ニーズの余地がないと郊外での開発が促進される恐れがあるため、郊外の開発圧力の受け皿として、今回新たな誘導区域の設定を行った面もある。空き家の解消なども重要であることは認識している。

馬場先委員：3m以上浸水するエリアは可能な限り居住を避けるなどの記載があっても良いと思う。1mからの変更の意図が理解しにくい。誘導区域の拡大についても、現行計画で定めている誘導区域において、本当に宅地開発ニーズの余地がないのか検証が不十分のように思われる。

事務局：3m以上浸水するエリアはできるだけ避けるべきというニュアンスを強調させて記載を見直したい。また、現状の誘導区域を蔑ろにする意図はないため、市民にも理

解いただけるように文章を再考する。

田中代理 : 作見地域の誘導区域について、都市計画マスタープランではスマートシティ先導地区として位置づけている一方、立地適正化計画では都市機能誘導区域として位置づけていない理由を確認したい。都市機能誘導区域に位置付けていないと国の補助を得られないのではないか。

事務局 : 誘導区域は、原則として用途地域外は指定できないと理解しており、スマートシティ先導地区については、用途地域に指定していないため、誘導区域に位置づけていない。

田中代理 : 今後、誘導区域の見直しを考えているということか。

事務局 : 該当箇所を用途地域に指定した際、誘導区域の見直しを検討する。

眞田委員 : 大聖寺地域の居住誘導区域について、今回の見直しにより大聖寺川沿いの一部が外されている。今後、大聖寺川における河川改修工事の予定はあるのか。

事務局 : 大聖寺川沿いは家屋倒壊等氾濫区域に指定されているが、河川改修工事の予定はない。また、動橋川において河川改修工事が進んでいるが、工事完了に伴い家屋倒壊等氾濫区域から除外はされないと想定している。

高山委員長 : 浸水を想定する規模として、80年確率から1000年確率への検討に移行したため、非常に厳しい浸水区域となっている。

唐谷委員 : 片山津地域について、旅館が立地するエリアでは雨が降る度に浸水しているイメージがあるが、そのようなエリアを含めるのは適切なのか。

事務局 : 誘導区域内において、ある程度浸水するエリアは存在しているが、これまで整備してきたインフラを考慮すると、誘導区域から除外することは難しいと考えており、ソフト対策で対応したい。

原田委員 : 立地適正化計画 P40 に示す低未利用土地利用等において、利用指針が「空き家バンクの登録推奨」とあるが、効果は限定的であると考えており、解消には寄与しないのではないか。登録制度だけではなく、行政が積極的に取り組んでいく必要があるのではないか。

高山委員長 : 都市計画マスタープランや立地適正化計画の施策として位置づけることは難しいかもしれないが、大聖寺地域は古き良き街並みが残っており、まち全体での活かし方などを検討しても良いと思う。

事務局 : 大聖寺地域における町屋再生、誘導区域内の移住・定住における助成金の支援も行っている。また、空き家対策については、他の部署で実施する誘導施策等と連携しながら講じていきたい。

馬場先委員 : 立地適正化計画 P29 で示す都市公園の半径について、地図上では250mと設定しているが、本文では300mとの記載がある。また、今回示されている公共交通や観光のデータが現行計画の数値と異なっているが、精査した結果見直したのか。

事務局 : 都市公園については、本文の表記が誤りであり修正したい。公共交通や観光のデータについては、他計画との整合性を図り、出典を現行計画から変更したものがある。

3) 立地適正化計画（防災指針、まちづくりの目標値）

馬場先委員：立地適正化計画 P77 の一覧表について、L 2 や L 1 などの専門用語に関する補足説明がほしい。また、浸水深についても、80 年確率から 1000 年確率とした経緯などを記載することで、基準を 1 m から 3 m とした意図が理解しやすくなるのではないかと。

事務局：説明不足の箇所もあり、注釈を入れるなど読みやすくなるよう改善したい。

4) 今後の予定

事務局：今後のスケジュールは、1 月から 2 月にかけて地域別説明会の開催、その後パブコメを予定している。なお、次回の第 5 回委員会は 3 月を予定している。

7. 委員会の状況

